

IGS 教員紹介 (2020年4月1日現在)

フンク カロリン Carolin Funck



職名 教授

研究分野 観光地理学

研究のテーマ 観光地の発展とその持続可能性について研究しています。例えば、近年日本では外国人旅行者が急増していますが、そのことが観光地にどのような効果と課題を引き起こすのかについて調べています。また、「外」から観光開発されるのではなく、地域が主体となった「内」からの地域の資源と文化を活かした観光の発展が可能かどうかを検討しています。

メッセージ 私自身は以前、留学生として日本にきました。そこで文化間交流の面白さと言葉の重要性を実感しました。私が研究対象としている観光でも、人と文化の出会いから楽しみが生まれます。IGSが出会いの場、そしてそこから始まる新しい発見の場になることを期待しています。

ヴィレヌーヴ 真澄美 Villeneuve Masumi



職名 教授

研究分野 コロイドおよび界面科学

研究のテーマ 雲の生成、細胞膜を通しての物質輸送、ヤモリの壁伝い、土壌コロイドの性質など、自然界の様々な現象に界面が関与しています。「界面」とは隣接する二相の間にしか存在し得ず、厚みが分子数個分の極めて薄い領域であるにも関わらず、この自然界を支配する要素の一つです。私は目では見ることのできないこの神秘的な領域を、熱力学を使って研究しています。

メッセージ 環境という複雑系における種々の問題を理解し解決するためには、どんな困難にも対応できる基礎学力をしっかりと身につけることが大切です。私は土台となる専門性をしっかりと持ちながら、周辺分野との関わりを理解し、背景の異なる人々と共に働ける科学者・技術者を育成したいと考えています。

片柳 真理 Katayanagi Mari



職名 教授

研究分野 平和構築

研究のテーマ 武力紛争は人、物、社会を傷つけます。どのようにその傷を乗り越え、平和な社会を作ることができるかを様々な側面から研究中です。「人権に基づく平和構築」、「ビジネスを通じた平和構築」、「紛争により失われた教育機会の回復」、「セキュリティ・ガバナンス」、「マイグレーション」が現在取り組んでいるテーマです。

メッセージ グローバリゼーションの時代、様々な課題は国境を越えて共有されます。平和もその一つ。それは所与のものではなく、常に平和を追求する努力が求められます。広島で平和構築や異文化コミュニケーションを学び、より平和な世界を目指すネットワークづくりに参加してみませんか？

金子 慎治 Kaneko Shinji



職名 教授

研究分野 環境経済学、開発政策学

研究のテーマ 主に途上国を対象とし経済発展と資源やエネルギーを含む自然環境との関係を公共政策の視点から広く研究しています。フィールドワークに基づく実証研究が主なアプローチです。

メッセージ 遊びも勉強も仕事もバランスよく精一杯取り組む、元気で好奇心おう盛な人が好きです。

柴田 美紀 Shibata Miki



職名 教授

研究分野 第二言語習得

研究のテーマ 英語は思うように上手にならないと感じたことはありませんか。母語である日本語は身につけようとして一生懸命勉強したわけではないのに、不自由なく使えるようになっていました。では、なぜ英語の上達はゆっくりで、努力をした分だけ上手になったと実感しないのでしょうか。この謎解きが私の研究テーマです。

メッセージ 学問とは「なぜ」を追及することであり、正解を見つけることではありません。これまでの研究で解明されたことを手がかりに、謎を検証し、思考し、自分なりの答えを出す—これが学問の真髄です。学問は自由で最高の遊びです。国際共創学科で思いっきり「なぜ」を追及してください。

関 恒樹 Seki Koki



職名 教授

研究分野 文化人類学、東南アジア地域研究

研究のテーマ グローバリゼーションと開発の諸側面を、文化人類学とフィリピン地域研究の視点から研究しています。社会政策や福祉国家といった近代の制度を、人びとの具体的な生のあり方とその変容に注目しつつ考えようとしています。具体的なテーマとしては、都市貧困、スラムの土地・住宅政策、資源管理、移住・移民などです。

メッセージ コミュニティでのフィールドワークというミクロな視点と、グローバル化によって引き起こされる諸問題の解明といったマクロな視点の両方を持った学生を歓迎します！

高谷 紀夫 Takatani Michio



職名 教授

研究分野 文化人類学

研究のテーマ 東南アジアとその周辺地域の民族間関係に関する人類学的な研究をしています。民族間関係は、民族認識と言説を介して構築される民族知のテキストとコンテキストに、過去も現在も影響されています。従って、民族間関係は、民族対立と平和構築対話のための研究の重要なテーマのひとつなのです。

メッセージ 1983年以来、ミャンマー他で、人類学的フィールドワークを続けています。フィールドワーカーにとって必要不可欠なのは、インターカルチュラル・コミュニケーション能力による現地の人々との信頼関係の構築です。私の研究成果は彼らの支援なくして達成されず、その返礼に、ヤンゴン大学客員教授も併任しています。IGSの学生には、豊かなインターカルチュラル・コミュニケーションの直接的経験を強く期待します。

達川 奎三 Tatsukawa Keiso



職名 教授

研究分野 英語教育学（英語教授法、教材開発論）

研究のテーマ どのようにすれば外国語である英語をより効率的にまた楽しく習得できるかを日々考えています。具体的には英語4技能（とりわけリスニング）の指導や評価のあり方、コミュニケーションの維持や挫折の修復・回避をするための方略、などが中心です。英語学習者や現場教員の支援に繋がる研究をしたいと願っています。

メッセージ 外国語をマスターするには2つの絶対量が必要です。一つは「学習の絶対量」を確保し、正確さ（accuracy）を高めます。もう一つは「実践的コミュニケーションの機会」を確保して、流暢さ（fluency）を磨きます。言語習得には努力と積極性が不可欠です。

山田 俊弘

Yamada Toshihiro



職名 教授

研究分野 保全生物学、森林生態学

研究のテーマ 生物多様性に関する研究を行っています。私たちはとても多様な生物種を見ることができます。生物多様性といわれるものです。私はなぜ、そしてどうやってこんなにも生物種が多様になったのか調べています。また一方で、人為的な影響により生物多様性が急速に減少しつつあります。生物多様性を保護する国際的な仕組みづくりに貢献したいと思っています。

メッセージ 生物多様性を守るためには、どのような知識が必要でしょうか。もちろん、生態学のような自然科学の知識が必要でしょう。しかし、それだけでは不十分です。生物多様性保全の制度化のためには、倫理学、経済学、社会学や法学等の多様な知識が必要です。環境や社会に関する、文系・理系を問わない、多くの学問分野が学べるIGSは、生物多様性を学び、その保護を実践したい人にとっても適しています。

河本 尚枝

Kawamoto Naoe



職名 准教授

研究分野 社会福祉、留学生教育

研究のテーマ 日本に暮らす外国籍および外国にルーツを持つ日本人の福祉、特に子どもと高齢者を対象に研究しています。現在、広島県在住の中国帰国者の介護福祉について調査研究を行っています。また、高等教育機関で学ぶ留学生のアカデミックスキル習得についても研究しています。

メッセージ さまざまな国や文化を持つ皆さんの授業を担当できることをとてもうれしく思います。IGSで毎日お互いの「違い」を発見すると思います。「違い」の理由を考えることは「相互理解」への第一歩です。「違い」を見つけて、その理由をIGSの仲間と話し合うことを楽しんでください！

岩本 洋子

Iwamoto Yoko



職名 准教授

研究分野 大気化学、海洋化学

研究のテーマ 大気中に浮遊する微粒子（エアロゾル）の研究を行っています。エアロゾルは雲粒の核になります。言い換えると、エアロゾルが無いと雲はできないし、雨も降りません。エアロゾルの気候影響や物質循環における役割を把握するため、海洋、山岳、都市、郊外などさまざまな場所でエアロゾルの物理・化学特性を計測しています。

メッセージ 地球環境問題を扱うためには、自分の専門性を高めると同時に、学際的・国際的な視点を持つことが重要です。IGSで広い視点と高いコミュニケーション能力を身につけた学生の方々と、将来一緒に野外調査をすることができれば嬉しいです。

グラジディアン マリア ミハエラ

Maria Mihaela Grajdian



職名 准教授

研究分野 メディア・スタディーズ、文化人類学

研究のテーマ 宝塚歌劇やスタジオジブリ、さらには、新海誠や村上春樹などの大衆娯楽の現象を中心とし、メディアとそのメッセージの相反する相互作用に焦点を当てて研究しています。学術的探求の中核となるものは、社会的で文化的製品を作る生産者と消費者として現れる人間を分析することです。また、経済的で政治的な限界と挑戦を乗り越えられる人間を観察することです。

メッセージ 人間の「優しさ」を固く、強く信じています。自分の人生にも、自分の研究にも、その「優しさ」を求め、どんなに小さな現象も発見し、祝福します。毎日微笑みながら、「優しさ」を全世界に普及するため、頑張っていきたいと思います。無理せずに、お互いに、頑張りましょう！

白川 俊之

Shirakawa Toshiyuki



職名 准教授

研究分野 社会階層論、教育社会学、社会調査法

研究のテーマ 階層研究は、学歴や収入の高さに応じて、人々がいくつかの層に分かれていることに注目します。職業についても、物差しを決めてしまえば、高いか低いかを評定することが可能となります。一般的に高いと見なされている地位は数が限られていて、誰もがそこに到達できるわけではありません。私は人々の進学行動や職業選択が、性別や親の地位などのような、自分で決めたり変えたりすることが難しい要因によって受けている影響を、統計分析を使用して調べています。親が大学を出ていると、そうでない場合と比べて、子が大卒学歴を得る確率は大幅に上がります。大学の学部・学科は、専攻によって男性と女性の比率が著しく異なります。こういった差異を生み出している社会的なメカニズムを明らかにすることが、研究のモチベーションです。

メッセージ 大学でする勉強は、簡単に答えが見つからないことが多いですが、そこが面白さでもあります。まだ、解答が示されていない問題について、皆さんと一緒に検討していきたいと思っています。

田中 晋平

Tanaka Shinpei



職名 准教授

研究分野 複雑系の物理学

研究テーマ 私は、要素間の複雑な関係性によって複雑な現象を引き起こすシステムの研究をしています。要素自身は単純なものであっても、それが多数、互いに関係しあっていると、全体としての振る舞いは複雑になります。さらに、システム全体の性質が逆に要素の振る舞いを規定することもあり、要素と全体は常に関連し合っています。このような現象を、できるだけ単純な要素を用いた実験・シミュレーションによって研究しています。

メッセージ 物理学の対象に制限はありません。物質から生命、自然環境、社会やインターネットまで、要素と全体が複雑に絡み合った現象をできるだけ一般化して理解する試みが物理学です。幅広い興味と鋭い観察力・洞察力をもった学生の方々と一緒に研究することを楽しみにしています。

タファナー ロバート H.

Robert H. Taferner



職名 准教授

研究分野 応用言語学、第二言語習得、語用論

研究のテーマ 私は、言語学習者の言語処理を助けるタスクを用いて、言語学習者の形態統語的段階について研究しています。更に、国際的な教育環境やビジネス環境での共通語としての英語の研究もしています。また、短期集中型の第二言語習得プログラム受講者の思考・期待・価値観についての調査も行っています。

メッセージ 私は武道と日本文化を学ぶために日本に来ました。日本語学習を通して、新しい言語を学び、習得する難しさを感じました。この経験を活かし、IGSの一員として、みなさんの明るい未来のお手伝いをしたいと思っています。

長谷川 祐治

Hasegawa Yuji



職名 准教授

研究分野 砂防工学、地域特性を考慮した土砂災害の発生機構と防災対策

研究テーマ 自然災害と聞くと、「地震」「洪水」「津波」「火山」などを連想する人が多いと思いますが、日本は山地や雨が多いため毎年1,000件近く「土砂災害」が発生しています。私の研究では、土砂災害の発生メカニズムや流動過程、被害を防止・軽減するための防災対策（構造物や避難）について検討しています。

メッセージ 土砂災害を防ぐ対策「砂防」を検討するには、対象を知る必要があります。土砂災害の発生には山の中の水・土砂の状態が影響しますが、各地域の特性を考慮した予測や対策は発展途上です。普段から観測や調査を行い山の状態を把握することで、少しの変化から災害の予兆を知ることが出来ます。PCによるシミュレーションから危険箇所を抽出して、実験から効果的な構造物の検討も出来ます。山や自然、自然災害や防災に関心がある人に、現場の観測、実験、解析など多様なアプローチから共に「砂防」に取り組んでもらえれば幸いです。

町田 章

Machida Akira



職名 准教授

研究分野 認知言語学

研究のテーマ 僕は、人間のことばとこころの関係について研究しています。特に、人間の一般的な認知能力がどのように言語能力を生み出し、毎日ある言語を使って生活することがどのように人のこころに影響を与えるのかについて研究しています。日本語的なもの見方と英語的なもの見方の違いも研究テーマです。

メッセージ 世界にはおよそ7,000もの言語があるとされています。仮にことばともの見方や考え方が密接に関わりを持っているとするならば、7,000もの異なったもの見方や考え方が存在することになります。ことばの研究を通して人間の心の中を覗いてみませんか。

山根 達郎

Yamane Tatsuo



職名 准教授

研究分野 国際関係論

研究のテーマ 私の研究関心は、現代の武力紛争がいかにして生じているのか、そして、これらの紛争に対し、国際社会がどのようにして紛争解決や平和構築のための取り組みを提供しているのか、という問いに関係しています。紛争の一要因としての「失敗国家」とはどのような特徴を持っているのでしょうか？リベラルな性格を有した平和構築の意義と課題とは何でしょうか？このような平和と紛争にまつわる難題について、私は国際関係論の立場から考察を進めています。

メッセージ 母語でも外国語でも、深い思考を伴ったたくさんの専門を、あなた自身の言葉で語れるように、IGSに入学するという選択をしてみませんか。

リグスピー カーティス アンドリュー

Curtis Andrew Rigsby



職名 准教授

研究分野 日本の宗教・日本の文化、哲学、比較思想

研究のテーマ 私の研究対象は日本の哲学です。西田幾多郎の周辺の京都学派などの近代の展開に特に関心を持っています。その中でも、日本における「神性」といったものを究極的に説明することや実践することを問題としています。さらにそこから思想間対話や日本の哲学の現代への貢献についても研究しています。

メッセージ 現実の根拠とは何か。美や価値とは何か。どう生きればいいのか。人々の世界観はなぜ違う。人々の生き方はなぜ違う。宗教と宗教の間、文化と文化の間、そこに共通性はあるのか。それぞれの違いは短所か長所か。これらの疑問に私は取り組んできています。その努力は、大学での経験がどうして貴重か、また、どうして私が日本を研究対象にしたか、という問題に自分が直面する主なきっかけになりました。

天野 修一

Amano Shuichi



職名 講師

研究分野 応用言語学、音声学

研究のテーマ 専門分野は応用言語学および音声学です。特に興味を持っているのが、英語学習者における強勢パターンの implicit learning です。またライティングや音声の指導実践にも関心があります。

メッセージ 広島大学で素晴らしい学生生活を送れるようお祈りしています。IGSの多様性を楽しんでください。みなさんにお会いできるのを楽しみにしております。

張 慶在

Jang Kyungjae



職名 講師

研究分野 観光学、コンテンツ・ツーリズム

研究のテーマ 人はなぜたびに出るのでしょうか？私の研究テーマは、大衆文化が誘発する観光、すなわち「コンテンツ・ツーリズム」です。コンテンツ・ツーリズムとは、映画、ドラマ、マンガ、アニメ、小説など様々な大衆文化が動機となる観光形態です。なぜ人々は大衆文化に登場する場所へ訪れるのか、そのような訪問から地域にはどのような真正性が生まれるのかについて、国内・海外のフィールド調査を通して明らかにするのが私の研究です。

メッセージ 人生はチャンスの連続です。ただ、一期一会という言葉のように、良いチャンスは一生に一度の出会いかもしれません。IGSは、そういったチャンスとして、皆さんが多文化を考える視野を広げる、多様な知識を学ぶ機会になると確信します。